

## 第14回生駒市介護保険運営協議会会議録

日時 平成28年1月28日(木)

午後2時00分から

場所 市役所4階 401・402会議室

### 出席者

(委員) 澤井 勝 高取 克彦 萩原 洋司 小川 千恵里 小坂 和子 櫻井 明子 林 昌弘  
井上 太 中庄谷 幸榮 村上 一美 日野 紀代子 藤尾 庸子

(事務局) 影林福祉部長

高齢施策課：安達 博臣 田中 明美 堤 良太 古田 領哉 水澤 宏之

介護保険課：島岡 伸康 小倉啓子

欠席者 辻村 泰範 永田 弘

### 傍聴者

#### 1 開会

会長(澤井)挨拶

#### 2 案件

(1) 会議の公開・非公開について

公開で行う。

(2) 超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び高齢者福祉施策のあり方について

① ティーミーティングの結果について

資料1・資料3により説明

委員：資料3のP.8のアンケート結果①と②あわせて過半数と総括されたが、これが正しいのか、②はどちらにでもとれる。合わせてしまうのは乱暴かなと思う。

事務局：ティーミーティング、タウンミーティングではそのようにしたと説明させていただいた。

委員：あえて合わせなくてもいい。廃止という意図でされたのではないかとみられて心苦しい。

会長：それぞれで見たらいいのであえて合算しなくてもいいことかもしれない。

- 委員：資料3のP.6の21,260億円はシルバー人材センターなどの配布に伴う経費は加算されていないんですね。財源を言うときには踏み込んで言ってもらわないとこれだけですんでいるのではない。
- 委員：交通費助成金で制限を加えて、その浮いたお金を子育て世代につかってほしいという意見が出ている。この資料ではどこにも出てきていない。
- 部長：子育て支援は市の重点項目に掲げられており力を入れていくが、市（他課）でしているのでここではそれを入れていない。
- 委員：市で取り組まれていることが確認できてよかった。
- 委員：いきいきカードの廃止は決定したのか。
- 部長：まだです。本日の答申も踏まえた上で、状態像に応じて今後の施策を検討していく。

## ② タウンミーティングの結果について

資料2により説明

総勢54名参加

- 会長：①、②あわせての意見をお願いしたい。
- 委員：タウンミーティングで同じ資料で説明されたのか。10年後にこれだけ高齢者が増え超高齢社会で買い物難民や寝たきりになったときに、お金も人材もないとなったときに、40代、50代の人はどう思うか。切迫感がないから感じ方が違う。その場に出席されていてどう感じられたのか。グラフを見ただけでは分からない。
- 事務局：ここに掲載している以外に、75歳以上の高齢者は全国平均1.3倍増だが、生駒市は1.7倍になり10年後の状況はかなり厳しいと説明されていた。ある程度生駒市の状況は理解されたと思う。
- 委員：介護支援の施策をみても要介護2はどういう状態なのか。要介護3、4、5はどういう状態か、参加者の皆さんはわかった上で話をされていたのか疑問だ。
- 部長：要介護がそれぞれどういう状態か説明はしていないが、人数は増えていくと話している。  
会場では、時間の制約がある中で、皆さんの思いを話された。
- 委員：来られている方54名はお元気な方々だ。ほとんどの人はサイレントマジョリティで、参加者が市民の代表と思わないでほしい。重度の介護をされている方にもう少し支援されたらいいと思う。
- 会長：タウンミーティングは、このテーマに関して初めての試みである。受ける側と行政側のギャップを少なくしていくのが必要だと思う。生駒市は介

護予防の制度は県内トップクラスだと思うが、浸透していないのではない  
か。

③ 答申案について

資料4により説明

- 委員：確認だが、平成27年要介護認定者 5,020 人とあるが、要支援も含んで  
いるのなら、要介護等認定者と、「等」を入れるなどするのがよい。  
重度化を緩やかに・・・というのは上昇カーブを緩やかにということか。  
要介護3から5、通院には介護タクシーが利用できることから・・・と説  
明あったが、要介護1、2も介護タクシー利用はできる。  
介護保険で日常生活の大部分を支えているとあるが、介護の手間の大部  
分を支えていると言うなら分かるが、答申として出すときにそう言いけれ  
るか。  
人材不足の解消。これは解き消すと書く。なくすことが出来ると思えな  
いが。言い過ぎではないか。
- 事務局：指摘どおり介護タクシーの利用は要介護1から可能だ。中重度の方の外  
出は通院に限られることが多い。解消の文言は、一定の対応が出来るとい  
うことで、文言を置き換えるのが妥当だ。
- 委員：介護者への負担軽減 これもどのように軽減されるのかなと思う
- 事務局：今後の代替案の中で、介護者支援への施策もある。ゼロと受け取られか  
ねないので修正が必要と認識している。
- 委員：私個人的にはパーフェクトと思う。これを実現していく手立てを持って  
おられるか。
- 部長：介護保険制度が今年度から変わった。総合事業という形で展開している。  
その中で状態像に応じて、いろんなメニューで試行錯誤しながら、こうい  
う方向で進めていきたいと考えている。
- 会長：方向性が提示された。具体的には今後ということだね。
- 部長：資料でもプランを示している。試行錯誤の部分がかなりあるので、事業  
者や先生とも話し合いをして進めていく。
- 会長：地域包括ケアについて、自助・公助・共助の公助は行政施策としてある  
が、柱として、行政だけではできないと共通認識を持ち、広い意味での地  
域包括ケア、住民の見守りも含めて、住民が何をするかという議論が必要。  
どこかにこのことをふれておく必要があるのではないか。先日、他課で市  
民自治協議会を作っていこうと会議あった。鹿の台地区で健康教室やって  
いるし、住民による移動支援も動き始めている。こういう力も盛り込んで

いったらどうか。

- 部長： 会長と相談したい。
- 委員： サロンでも近くでないと行けないが、公民館さえないところがある。新たに開発でできたところは難しい。自治会長のなり手もない状況だ。空き家等の利用も含めて行政の考えを聞きたい。
- 会長： 北九州市では公民館を切り替え、市民福祉センターを全校区に作った。社会教育システムにした。場所ができると変わっていく。たまり場ができる。そしたら活用していける。どこが実施するかはあるが、市として実施してほしい。
- 部長： 市も課題として認識しており、検討されていくことと思う。
- 委員： 活動の場も大事だが、担う側の人材確保も大変。住民だけで解決できないのでよろしくお願いします。
- 委員： 自治会長や民生・児童委員も巻き込んで、共に力を合わせれば何とかなる考えて、私たちはやっていきたいと思っている。
- 委員： 寿大学はすごく活発。よい人材だと思うので何とか活用できないか。
- 委員： 自分の楽しみには行くが、ボランティアになると行かない人が多い。ボランティアも本当に楽しいんですよ。
- 会長： 答申のほうは事務局とともにまとめる。